

### 1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2890500156		
法人名	社会福祉法人 フジの会		
事業所名	グループホーム モーツァルトいのり		
所在地	兵庫県神戸市兵庫区松原通2丁目1番17-1号		
自己評価作成日	平成28年1月5日	評価結果市町村受理日	平成28年3月8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/28/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/28/index.php</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利法人 コミュニティ・サポートセンター神戸		
所在地	兵庫県神戸市東灘区住吉東町5-2-2ビュウタワー住吉館104		
訪問調査日	平成28年1月15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

『愛・開・創』を事業理念として、当事業所にかかわるすべての人々やものごとに感謝と敬愛の気持ちを持ち、ひろく社会に開かれた福祉の拠点として前例や固定観念にとらわれず常に前向きにをモットーに、ゲストが有する能力に応じて出来ることはしていただくという個々に役割をもった自立した生活を送っていただけるよう支援します。また、食事の献立や準備を一緒に行うなど、ゲストと職員と一緒に作業を行うことで、コミュニケーションをとりながら家庭的な雰囲気でも過ごしていただけるように努めています。ご家族や知人の訪問、地域の方や併設施設との交流も多く、ゲストの今までの生活を大切にしながら地域の一員として安心して過ごしていただけるよう支援することを心がけています

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人の理念を基に作られた事業所の理念を「個別ケアNO.1」「いつも笑顔で」「地域に開かれたサービス」「常に前向きにチャレンジ」という言葉にし、唱和している。行動基準や業務マニュアルは母体法人で作成されたものに準じている。それらの内容の理解を深める為、職員で読み合わせて確認合っている。運営推進会議には毎回複数の家族が参加し、活発に話し合っている。メンバーの婦人会会長は有力な支援者で地域活動やイベント時にはそのネットワークを活かし住民との大切なパイプ役として活躍してくれる。食材は事前に仕入れるものの、全て自家調理であり何が食べたいかの希望を聞いて調理する。残り物の食材でもうまく利用してしまう。利用者も調理が大好きな職員と一緒にたまたま調理する。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および第三者評価結果

グループホーム モーツアルトいのり

評価機関: 特定非営利法人 コミュニティー・サポートセンター神戸

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	『愛・開・創』の理念のもとゲストのニーズに合った細やかなサービスを実践している。また行動基準書によって、全職員が理念を共有し意識づけしている。	法人の理念「愛、開、創」を基に、職員全員で事業所の理念「愛とはいつも笑顔で、開とは地域に開かれたサービス、創とは常に前向きにチャレンジ」を作りあげ、月始めの朝礼で唱和している。また法人の詳細な行動基準を職員で読み解き共有化している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	毎日の散歩の際に、近隣の方とあいさつや会話を交わしたり、自治会行事への参加や婦人会との廃品回収、バザーを行う等、地域との係わりを持つよう取り組んでいる。	自治会である明親会に加入している。婦人会の方々と共同で食料品や衣類等を集め10月に事業所内でバザーを開催し約60名の参加者があった。新聞紙や段ボールなどの廃品回収についても月1回定期的に所定の場所に集めて地域団体への寄付としている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症を知って頂く為の地域に向けた研修会を行い、認知症に対する理解を深めて頂けるよう努めている。また、廃品回収への参加や、近隣の方へ向けて行事のお誘いなど、地域への取り組みに繋がっているよう努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	偶数月に運営推進会議を開催し、事業計画に基づいた利用状況等の報告やゲストの日常の様子などを報告している。また参加者からの意見をいただき、サービスの向上に取り組んでいる。	2ヶ月に1回、運営推進会議を開催している。会議室を借りるほど家族の参加希望が多かった時もあった。メンバーである婦人会長は地域とつながるキーパーソンとなっている。事業所への理解は深く、地域の意見や行事情報、議事録は玄関にも置き公開している。	運営推進会議の内容は詳細に記述されています。記録を家族に送付して全ての家族と情報を共有することを期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	区のGH連絡会に参加して課題の検討や情報の共有を行っている。また、区が主催する連絡会や研修会等に参加して連携を図っている。市担当者には随時相談を行い、情報収集を行っている。	3カ月に1回兵庫区内のグループホームの集まりに数名の職員が参加しており、最近では「地域との関わり方について」をテーマに話しあった。バザーや喫茶、イベントや住民とのお付き合いなど、利用者の事例検討とともにお互いの情報交換の場となっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は行っているが、法人内や事業所内でも身体拘束についての研修を行い、職員もその意義を理解してケアを行っている。	法人の安全衛生部会では、4月に人権擁護ならびに身体拘束をテーマとして研修をしている。身体拘束の例はないが、やむをえない場合の手続きやケア等はマニュアル化されている。1階のデイサービスでは人の出入りが多いので、家族に説明した上で施錠している。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内や事業所内でも高齢者虐待についての研修を行い、身体的虐待だけでなく心理的虐待についても見過ごさないよう、言葉遣い等にも気を付けるよう努めている。	言葉使いや不適切ケアについては、日々の生活の中で注意し周知徹底を図っている。職員が自己評価できる分かりやすいワークシートに、入職や赴任1, 3, 6か月後に記入してもらい、その時の心境や状況を管理者が評価するフォローアップ研修をしている。	

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(7)		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在入居されているゲストの中には制度を利用している方はおられないが、必要な場合には支援できる体制をとれるようにしている。	現在、成年後見制度の利用者はいない。昨年、11月には社会福祉協議会による研修を実施した。参加職員は研修報告書を提出し、職場で伝達研修を行い共有する。毎年、スキルアップ研修に後見人制度を取り上げ研修している。今年は2月に予定している。	
9	(8)		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には重要事項を説明したうえで不安や疑問点を尋ね、理解・納得をしていただいたうえで契約を結ぶようにしている。	契約時には本人や家族の不安や疑問が残らないように管理者が時間をかけて丁寧に説明している。時には病院ではなく自宅と同様に生活できることを理解してもらうのに時間をかけることもある。事業所でできること、できないことなども説明し納得を得ている。	
10	(9)		○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議にゲストやご家族が参加し、意見や要望をお聞きしてサービスの質の確保や向上に努めている。また、来訪時や面会票のご意見欄などでも意見をいただいた時は会議等で話し合い、運営に反映させるように努めている。	運営推進会議には複数の家族が参加しているので忌憚のない意見交換がある。訪問客が多く面談時に家族の意見を聞いている。家族が、職員が手薄な夜しか訪問できない場合には、特別に「個人の情報ノート」を作って、家族との情報交換を大切にしている。	
11	(10)		○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は月1回の職員会議に出席し、職員の意見や提案を聞く機会を作り運営に関して反映させるように努めている。	月1回の職員会議や朝礼時には現場の意見を聴いている。管理者が会議の内容を詳細に記述し職員間で回覧してあらゆる事柄について共有している。最近では、酸素濃度の測定頻度を職員間で検討した例もあった。	
12			○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員には定期的に面談を行い、管理者とその内容を確認している。また、面談を行い運営や就業環境の整備等に反映させるよう努めている。		
13			○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人全体での定期的な研修実施、職員会議内での研修実施を行っている。またフォローアップ研修等のOJTを行っている。		
14			○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	区内のグループホーム連絡会に参加し、情報交換を行ったり、法人内での他事業所への訪問研修や他グループホームとの交流などを行い、サービスの質の向上へ繋げている。		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15			○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時の面接の際にご本人の意見を大切に するため、ご本人とご家族別々にアセス メントを行い、ご本人の困っていることや要望 に近づけるよう、安心して生活していただ けるよう努めている。		
16			○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っている こと、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係 づくりに努めている	入居時の面接の際にご家族の思いを理解 しながら意見に耳を傾け、困っていることや 要望を一緒に考えていくことで信頼関係が 築けるよう努めている。		
17			○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「そ の時」まず必要としている支援を見極め、他の サービス利用も含めた対応に努めている	面接時に必要と思われる支援に関しては見 極めている。また、ケアプランも暫定で作成 し、ご本人が徐々に施設に馴染んでいただ いてから必要になる支援についても対応で きるよう努めている。		
18			○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、 暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活をしていただく中で、職員がゲストの出 来ること、出来ないことを係わりによって見 いだし出来ることは続けて行っていただ けるよう支援する。		
19			○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、 本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支 えていく関係を築いている	生活をしているうえで必要な情報に関して は電話等ですぐに報告を入れるようにして いる。また、なるべく訪問して関わりをも っていただけるように取り組んでいる。		
20	(11)		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場 所との関係が途切れないよう、支援に努めている	定期的に外出をすることによって、近所で暮 らしていた方については馴染みの場所や人 を忘れてしまわないよう支援している。近所 の保育所にゲストの作品を職員と一緒に届 けたりもしている。	利用者との散歩は毎朝欠かさない。その折 出会った友人と挨拶を交わしたり、自宅に立 ち寄りたり、馴染みの人との交流が出来て いる。馴染みの喫茶店に行き、店主と昔話を して楽しんでいる方や友人たちが近隣の教会 に誘ってくれる人もいます。	
21			○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せ ずに利用者同士が関わり合い、支え合えるよう な支援に努めている	ゲストの性格や相性などを職員が把握し、 共に助け合って暮らしていけるよう支援し ている。また、孤立しがちなゲストに対して は職員が声をかけて他ゲストと関わるよう に支援している。		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22			○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	現在は転居に伴って退居された方はおられたが、転居先の施設へ情報を提供するとともに、こちらでの生活の様子などをお伝するなどフォローを行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	(12)		○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話の中で思いや希望、意向を聞き取るようにしており、困難なゲストの場合はご家族に聞き取り、本人本位なケアに近づこう努めている。	アセスメントシート作成時、見直し時や、普段の何気ない会話から思いや意向をつかみ実現を支援している。散歩好きな利用者は毎日散歩を、習字の好きな利用者は、1階デイサービスで習ったり、雑巾を手縫いで保育園に届けに行く利用者もいる。	
24			○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の面接の際に生活歴やサービスの必要性などをアセスメントしている。また、入居後も日々の会話の中で収集した情報に関しては、記録し職員で共有するようにしている。		
25			○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の生活のリズムを尊重し、本人が出来ることを暮らしの中で発見し、職員が共有して把握できるよう努めている。		
26	(13)		○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスにはご本人とご家族の意見も伺っており、職員の意見も話し合うことにより介護計画に反映させている。	作成した介護計画は、変更必要時、その都度職員の協議により変更し様子を見ている。3か月から6か月に1度カンファレンスを行い見直している。現在終末期に入っている方が1名おり、医師の所見、家族の意向を確認、書面にしてある。	
27			○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や対応を支援経過記録に記入し、職員間での情報共有やケアの見直しに生かしている。		
28			○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人の状況やニーズに合わせてDSでの行事への参加や受診や往診の支援、訪問理美容等に取り組んでいる。		

自己 者 第三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の関係者と協議し、ボランティアの交流や行事への参加等を行っている。また、地域の飲食店や郵便局の利用なども行っている。		
30	(14) ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医による往診の他、ご家族の協力のもと、入居前からの地域の主治医への通院を継続されている方もおられる。	協力医による往診が月2回ある。かかりつけ医に以前から受診している方は、家族同行で行っているが、事業所内での様子を伝える為に職員も同行する事もある。急変時など入院できる総合病院とも連携をしている。	
31	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	現在、グループホームに常勤している看護職はいないが、日常の体調の変化など健康に関することは日中であれば併設のデイサービスの看護職員に相談し、指示を仰いでいる。必要時には、受診に繋げ、早期発見・早期治療に努めている。		
32	(15) ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には地域連携室に連絡し、日常の様子や対応など情報共有を行う。また、退院前にはカンファレンスにも呼んでいただけるよう確認し、退院後も統一したケアを行えるように支援を行う。	入院時、入院中は電話やファックスで入院中の利用者の状態を把握し病院と共有している。入院中、職員がお見舞いに行ったり、状況によっては退院前のカンファレンスに必ず参加し、退院後のスムーズな支援につなげている。	
33	(16) ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期の在り方については、ご家族に施設で出来る範囲を契約時にお伝えしている。また、尊厳死を希望されているゲストに関しても職員と病院関係者で情報の共有を行っている。	重度化、終末期の利用者に対する指針を作成している。現在、終末期に入っている方は1名である。医師、家族と話し合いの上当事業所で看取りを行う事になり書面で確認した。職員も情報を共有し対応している。	
34	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応マニュアルを作成し、全職員が対応出来るように努めており、市民救命士の研修も行っている。		
35	(17) ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協働体制を築いている	火災の際の避難訓練を行い、職員間で避難誘導や初期消火ができるよう訓練を行っている。また、災害の発生に備えて水や食料品などを3日分保管しておくようにしている。	昨年2回火災時の避難訓練を行った。利用者の誘導、消火器の使用等、消防署に聞いてやってみた結果多くの課題を確認できた。利用者の病歴等の持ち出し用情報ファイルはコンパクトに1冊にまとめている。備蓄の入替え時に期限が近づいたものを調理に使用する。	災害訓練の時でも戸惑うことが多くあり、実際はもっと大変だろうと想像します。事業所内だけでなく、是非婦人会を中心にして近隣住民に声をかけて一緒に訓練を行い、災害対策等を共有してはいかげでしょうか。

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	(18)		○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ゲスト一人ひとりに合わせて誇りやプライバシーを尊重した声掛けを心掛けている。また、法人全体でプライバシーの保護や人権擁護についての研修を行い職員で共有するように努めている。	職員の行動基準書があり関連箇所を2年毎に見直し改定している。利用者にNG(禁止)ワードを使用した職員には、その都度職員同士で、又は管理者が注意指導している。人権擁護やスキルアップ研修を受講した職員は他の職員に伝え共有している。	
37			○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ゲストの意見を尊重し、日常生活の中でその言葉や態度によって自己決定していただけるよう支援している。また、自己決定していただけるような声掛けを行っている。		
38			○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ゲストの生活のペースを大切にし、食事や入浴・排泄等、体調や気分に合わせて柔軟に対応するように努めている。		
39			○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴や更衣、外出の際にはゲストに服装を選んでいただくように声掛けを行っている。また、散髪に関してもご本人の希望で訪問理美容を依頼したりしている。		
40	(19)		○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	常にゲストが食べたいものを聞き取るようにしており、希望によっては献立を切り替えることもある。また、食事の際には出来る方には盛り付けや配膳作業なども手伝っていたりしている。外食なども不定期ではあるが行っている。	昨年は複数回外食ができた。利用者の誕生日には、好きなものを聞き全員がその献立でお祝いをしている。食事レクリエーションは職員が手伝い、調理、机拭き、配膳下膳などを何人かで行っている。職員と一緒に冷蔵庫の残り物を見て献立し調理を楽しんでいる。	調理はしたくないと言う利用者もいるでしょうが、例えば、粉を丸めるなど皆で一緒にする調理作業は楽しいかもしれません。一度料理担当の職員と検討してみたいかがでしょうか。
41			○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	契約時に聞き取りを行った減塩や水分制限などの注意事項に加え、好き嫌いの配慮などを栄養バランスを考慮しながら行っている。また、食事量と水分量に関しては毎日記録を行っている。		
42			○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後にはうがいをさせていただくよう声掛けを行い、夕食後には居室の洗面所で歯磨きをしていただき清潔保持に努めている。また、2週間に1度訪問歯科の検診を受けており、口腔ケアとチェックを行っている。		

自己	者 第 三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のサインを見逃さず、その方に合ったトイレの方法を職員間で情報を共有し、トイレでの排泄が継続して行えるよう支援を行っている。	自分で椅子から立ち上がった時などを見計らいトイレに誘導している。夜間は、おむつ交換や居室でのポータブルトイレ使用者はいるが、日中は全員トイレを使用している。トイレは無臭で快適に使用してもらうため、1日2回掃除している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	しっかり水分を摂っていただけるよう働きかけを行うと共に、好みに合わせた種類の飲料も用意している。また、食事にも野菜を多く摂っていただけるよう工夫をして便秘予防に取り組んでいる。		
45	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個浴を基本としており、ゆったりとゲストのペースに合わせて入浴をしていただけるよう支援している。また、体調不良や気分も考慮し入浴日をずらしたりする配慮も行っている。	毎日午後を入浴時間とし、本人や家族から習慣や好みを聞きながら職員が個別の入浴支援を行っている。長湯が好きな方や夜中に入浴を希望する方にも応じている。異性の職員が入浴介助を行う場合などは、事前に職員名を伝え了解してもらう。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ゲストの生活のペースを大切に、就寝時間も起床時間も体調や状態を見てその方にあった休息をとっていただけるよう配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ゲストの薬の説明書に関しては個別ファイルに保管し、職員が内容を把握するようにしている。また、ゲストの状態によって薬の変更があった場合は連絡ノートにも記載し、職員全員で確認するようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の暮らしの中で、食事の準備や洗濯、掃除など一人ひとりに合った出来ることを生かして取り組んでいただけるよう支援している。また、ご家族にも協力していただき、編物など自宅にいる時と同じ趣味が続けられるように取り組んでいる。		
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望者には毎日の散歩を行ったり、保育所への訪問等に行き届けるよう努めている。また、近所の喫茶店への外出や遠足時の回転ずしなど、特別な楽しみも持っていたりできるように外出支援を進めている。	食材購入を宅配にしたので買物の外出はなくなったが、職員1名と複数の利用者で毎朝近隣を散歩している。海浜公園や王子動物園に遠足に出かけたり、兵庫えびす祭りに、利用者全員が行けるように日程を分けて出かけ、楽しんだりしている。	職員も解りやすく、家族の理解度も深まるように、利用者毎に日々の外出の実績一覧表を作成し、事業所を訪れた家族に状況が判るような工夫をされてはどうでしょうか。



自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50			○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大きさを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的にゲストには現金は持たせないことを契約時にお願いしており、必要なお金は施設が立替え、お預かりしないようにしている。		
51			○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望がある方には随時支援している。携帯をお持ちの方は自由に連絡を取られている。		
52	(23)		○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	木の温もりを共有の空間に取り入れ、また間接照明を使用し光による不快を与えないような工夫を行っている。また、観葉植物や季節の飾りなどゲストにとって居心地のよい場所となるよう配慮している。	利用者はゲストであるという観点から、館内共用スペースはシンプルで利用者の作品などの飾り物がなくホテルのような感じである。日差しが良く入りリビングがとてもし明るい。トイレは清潔で浴室も香りがよく気持ちのいい空間になっている。	
53			○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングや食堂の席を工夫するなどゲストが気持ちよく過ごしていただける居場所を作るように努めている。		
54	(24)		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居される際に、自宅で使っておられた馴染みのあるベッドや家具を持ってきていただき、ゲストが落ち着いて生活していただけるよう配慮している。	洗面台が備えられている明るく清潔感のある居室で、仏壇を置いたり、ぬいぐるみを飾ったり、書道の作品を貼ったりと思い思いの居室となっている。毎日職員と共に掃除をし、清潔を保っている。	
55			○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ゲストの状態を把握し、必要であれば無料でベッド用の手すりを貸出したり、安全で自立した生活が送れるように、工夫している。		